

# Citizen activity information magazine

三浦市民生活向上会議会報

〒238-0102

神奈川県三浦市南下浦町菊名1258-3

三浦市総合福祉センター

電話 046-888-7347

発行：社会福祉法人三浦市社会福祉協議会

発行責任者：出口 道夫

## Vol.10

## 第七回ボランティア活動推進部会開催

去る十二月四日、今年度第七回目となるボランティア活動推進部会が開催されました。今部会では、先般おこなったボランティアに関するアンケートの結果を受けて、計画の柱立てともなる三浦市社会福祉協議会（ボランティアセンター）が果たすべき機能（①情報②ヒト③モノ④カネ⑤ボランティアセンターの機能強化）について話しあいました。



ボランティア部会員の皆様。日々の経験からのご意見の1つ1つが、ボランティア活動推進計画策定の鍵となります。

ら、三浦市社協のホームページに活動の追体験ができるページを増やしたいと考えた。

一方経験者は、広報紙、次いでロコミの利用が多い。

社協の使命として、地域住民が抱えている生活課題を、市民に「フィードバック」することが必要になると考える。

### ② ヒト

未経験者には活動・寄付活動に興味を持つ人が多い。講座についても興味を持つ人が多い。経験者の多くは、講座の受講は実際の活動に結び付いたと感じている。

地域の課題の解決に向けて働く人材を育成する。これも重要な支援になると感じた。

### ③ モノ

経験者は、身近な活動場所を求めている。活動場所用料の支払意思額は、ボラ協：百九十円。経験者：三〇〇円。

### ④ カネ

未経験者は、活動にかかる費用について「交通費・弁当代は欲しい」と考えている。一方経験者については、活動を「市や社協の助成内で行いたい」人が多いが、「自費」と「受益者負

担」を選ぶ人も少なくない。社協の助成制度の整備と、公費助成のルールづくりが必要であると感じた。

### ⑤ ボランティアセンター

経験者が社協に求める役割の中で最もニーズが集まったのは「ヒト（人材育成）」。また、「市役所との役割分け」「ボランティアコーディネーターの資質向上」にも一定の票が入った。

### ⑥ その他

今回のアンケートでは、活動を始めきっかけや、経験者と未経験者の意識の差についても調べている。経験者に活動を始めたきっかけを尋ねたところ、「友人・知人の誘い」が最も多かった。意識の差は、紙上では読み取れなかった。

\* \* \*

これらの結果を受け事務局は、社協が機能する上での目標を再考したが、委員から「言葉が分かりにくい」「話し合いにずっと参加しているの言いづらいことは分かるが、計画に起こしたときにどうか？」等の意見が聞かれた。次回個別の事業計画と併せて再検討したい。



水野節子部会員

以下は、事務局からのレポートに対する各部会員からのご意見です。(敬称略)

**情報について**

単に追体験(他の人はどのような活動をしているのか知りたいたい)というニーズに応えるため)といっても、どのよう

な紹介すれば、それが活動の喚起や意欲の増進につながるのか、イメージが湧かない。例えば、ボランティア連絡協議会に加盟しているような活動者のコメントを紹介しても、それ以上の広がりはないような気がする。「どうせ、この人は特別な人なんだ」と思われるのがオチだ。どう

く活動ができる、ということ

を万人に知らしめることができ

るかもしれない(水野)。また、ボランティアという

と、自発性が重視されるが、このアンケートの結果によると経験者の多くが、友人・知

人の誘いによって活動に参加していることがわかる。こちらから「仕掛け」たり、あるいは、あえて興味を引くよう

な情報を(カスタマイズして)提供することが求められるように思う(石崎)。

私の経験から。私もボランティアをしたくて手話サークルに入ったわけではない。手話

話が多すぎて手話サークルに入ったら、それもボランティア活動なのだということが後

でわかった(水野)。アンケートの結果をみると、情報が伝わっていないこ

とがわかる。単に情報量を増や



石崎洋美部会員



松岡由紀部会員

やすだけで、それが伝わるのだろうか。伝えるための「手だて」を明記する必要があるのではないか(松岡)。

**モノ(場所)について**

活動場所については、活動の内容に大きく左右されるとこ

ろもあるようで、一概に公的施設が増えればいいというものではないと思う(日景)。

NPO法人を運営する立場から。「場所」の確保には苦労

した。活動内容によっては、誤解や偏見もあり、地域社会に受け

入れられるのにも時間がかかる。まずは、活動を知ってもらうことが第一だ。そういったときにサポートしてくれる体制が整って

いれば有難かった(石崎)。

**トコについて**

福祉教育(手話講座)の効果ということだが、学校によっては、そこで学んだ成果を学習発表会

の。すぐさまそれが、ボランティア活動に繋がるかは別として、生徒の中には何かが残っていることは確かだ。社会福祉協議会にやっていたらいいところとは無駄にはなっていない(松岡)。

**意欲を応援するとは?**

「ヒト」のところまで「意欲を応援」とあるが、イメージが湧かない。具体的に、どういうことをすると「意欲を応援」することになるのだろうか(松岡)。

これについては、「せんだい・みやぎNPOセンター」の代表理事、故加藤哲夫氏の言葉を引用して次のとおり説明した。「市民が問題解決行動を起こすこと

自体を、市民活動と言う。しかし、社会がそれを評価しないと、それをつぶすことになる。声を上げて行動した人たちが、孤立

してしまふ。日本でも一九八五年頃に表面化した薬害エイズ事件。政府と製薬会社はずっとそ

の責任を認めず隠そうとしてきた。そのせいで多くの人命が失われた。厳しい差別と偏見の中、実名を公表して問題解決のために運動した人達がいる。そして、そういう闘いをする人たちがい

なかったら、今のエイズの治療体制はできていなかった可能性が高い。市民の力によって、現在の医療の体制が整備されたのである。」

社会問題を解決しようとするボランティア活動は必ずしも行政や大企業にとって、都合の良いことばかりではない。だからこそ、純粋な問題意識や行動を大切にしていきたいという「思い」が「意欲を応援する」という表現につながった、と。



日景永子部会員

**編集後記**

▼次回からいよいよ、個別の事業計画を立案する作業に入ります(杉崎)あーあ、年の瀬だ(佐藤)年賀状のいいアイデアが思い浮かびません。家の猫ちゃんばかりになりそう(高井)来年は真面目にやろうと思ってる。俺はそつという路線でいきたいの(出口)

次回 ボラ部会

一月二十二日(火)

十四時 開催